

半導体漫遊記

④7

湯之上隆

京大の山中教授のノーベル生理学・医学賞受賞が発表された。日が、2000年以降は本人として、また京大出身者として素直にうれいと思う。

ノーベル賞日本人19人受賞

京大出身は10年に1人

山中氏の受賞により日本人のノーベル賞受賞者は19人となった(2008年に米国籍で受賞した南部氏も日本人に含めた)。この19人を出身大学別に分類してみた(図)。この分類では、山中氏は現在の京大ではなく神戸大出身となる。

まず、2000年以降に受賞者が増大していることが分かる。2000年以前は1949年の湯川氏から19

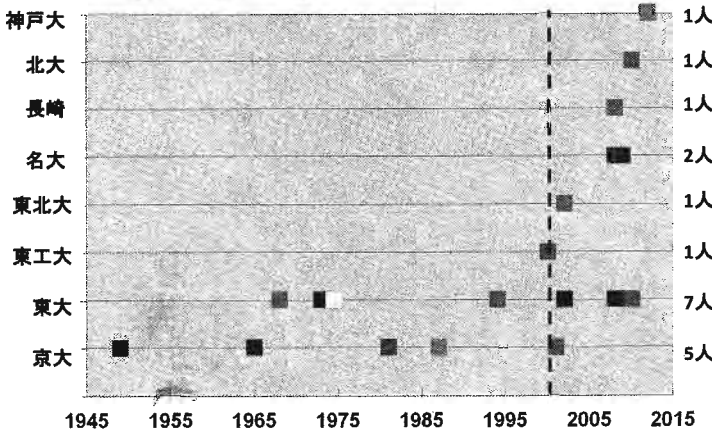
だけが1949年の湯川氏以降、散発的に(平均すると10年に1人の割合で)受賞している。東大、名古屋大など他大学は2000年以降に集中している。つまり、「京大は理系のノーベル賞受賞者

が最も多く、受賞者は10年に1人の割合で出現する」というユニークな特徴を持つことがわかる。

出身大学別では、東大7人、京大5人、名古屋大2人の順となっている。物理学、化学、生理学・医学など

の理系分野に限れば、京大5人、東大3人、名古屋大2人の順となっている。1981~1987年までの6年間、実際に京大に在籍した私には「優をくれ」と書け。に1人天才が育てば

■ 物理学 ■ 化学 ■ 生理学・医学 ■ 文学 □ 平和



日本人ノーベル賞受賞者の出身大学

(注: 2008年の南部氏・東大は米国籍)

「10年に1人」の伝統が今も続いているならば、そろそろ、京大出身者のノーベル賞受賞者が現れてもいい頃ではない。もし京大の

お望みの成績をあげますよ。だから留年しないで卒業してもらいたい

先生たちがこのように言うのにも訳がある。京大(特に理学部)は留年率が高く、8回生まで居残る者が

粒子論の最初の講義の冒頭で、物理学の教授

非常に多いのである。

野依良治氏が2001年にノーベル化学賞を受賞して以降、京大

ある。(半導体技術者・社会学者)